

「第34回共に生きるみんなの歌と踊りのつどい」に参加して

2014/8/8

「広報みなと」に掲載の作詩募集欄に応募したのは4月。

5月のある日、港区社会福祉協議会の担当者から「詩が採用され曲がつきます」と留守電に残されていた。つどいの案内が届いた。

日時は7月5日（土）午後1時30分～4時

場所は 港区立麻布区民センター

主催は 港区社会福祉協議会（共に生きる歌と踊りのつどい実行委員会）

第34回目とは国際障害者年を契機に発足したつどいであることや障害のある人もない人も共に歌い、踊ることを通して「共に生きる」喜びを分かち合う事を目的としたつどいであること等を、私は知らずに詩を応募していたのである。当日新曲コーナーで紹介されるために初めての参加だった。心から感動の時間だった。

港区内の障害者施設、団体による歌や踊り、演技、楽器演奏などが発表された。公募により選考された詩はボランティア団体が朗読し、曲のついた私の詩も歌手の方の楽団により発表された。舞台装置、音響効果、伴奏、手話、ポスター、チラシ、詩歌集などの全ての作業を、実行委員の分担による手作業と知り驚いた。

横浜市民から港区民となった年に「チャレンジコミュニティ大学」6期生となった。心細さを支えてくれたのもCCの仲間だった。23年3月11日をきっかけに、私は「一期一会」の言葉をより大切にするようになった。「あなたに会えて」の詩は素直に書けた。作曲をしてくださったのは、過去採用の詩にも曲をつけておられる、全盲という視覚障害の高原蘭堂先生。優しさが伝わる曲です。

武井区長さんもお祝いに駆けつけてくださいました。

グループの親友に「詩」のことを打ち明けると自分のことのように喜んでくれて嬉しかった。何気なく「あなたに会えて」を口ずさんでいただけると嬉しいです。 六期 及川廣子